

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木支部会報 2006.03.20

NO.4

- | | | |
|--------------------------|-------------------|----------|
| ○日本学校教育相談学会会長挨拶 | 「学校が危ない」 | 日野 宜千先生 |
| ○日本学校教育相談学会栃木支部月例研修会 | コメンテーター | 毎澤 典子先生 |
| ○カウンセリング特別講座・合同研修会 | 演題 「認知行動療法」 | 内山 喜久雄先生 |
| ○日本学校教育相談学会栃木支部月例研修会 | 演題 「小児科医から見た児童臨床」 | 渋川 典子先生 |
| ○精神医学特別講座 | 演題 「家族との連携」 | 檜林 理一郎先生 |
| ○「学会研修プログラムによる基礎研修」 | | |
| ○参考資料「平成18年度栃木支部事業計画(案)」 | | |
| ○栃木支部より お知らせ | | |

○ 日本学校教育相談学会会長挨拶

「学校が危ない」 日本学校教育相談学会会長 日野 宜千先生

学校教育が心配です。

揺れる教育行政の中で、教師自身の優先順位をどこに置くかが問われています。

ゆとりなのか充実なのかの問題に始まり、特別支援教育に代表されるような、方向は正しくてもどう進んでいいか戸惑うものもあります。手探りで暗闇を進むような自信のなさはないでしょうか。

生徒指導や教育相談も心配です。

まず、外部からの支援が大幅に増え、教師の多忙さとあいまって、「スクールカウンセラー」や「こころの教室相談員」、あるいは外部機関に任せようという風潮が感じられることです。

そんなことはないと否定する教師は多いと思いますが、外側から見るとそう見えてなりません。

子どもたちの行動については、何とか良い方向に成長するよう指導しようとしても効果が上がらなかったり、不登校やいじめ、学校内暴力など手に余る問題行動を抱えたりすると無力感が起きます。

さらに、保護者の協力が得られなかったりすると不登校は適応指導施設やスクールカウンセラーに、学校内暴力は警察に任せる、こういう事態が増えているのではないのでしょうか。

生徒指導や学校教育相談は半世紀近い経験と実績があります。

子どもたちの目に余る変化があったとしても学校が彼らを守り、育て、鍛えねばなりません。

学校教育相談とは「教師が児童生徒最優先の姿勢に徹し、児童生徒の健全な成長・発達を目指し、的確に指導・支援すること」と日本学校相談学会は考えています。

生徒指導との関係も、重要なのは訓育的指導か相談的指導かではなく、如何に目の前の児童生徒優先の指導・支援がなされるかです。つまり、生徒指導も目の前の児童生徒最優先の姿勢に徹し、一貫して指導・支援にあたることができたとき、実践の中から本来の生徒指導が生まれます。このとき生徒指導と学校教育談は完全に統合し「一体」ととらえられます。

教師の主体性が、学校を支え、子どもたちを育てると思います。

○日本学校教育相談学会栃木支部月例研修会

コメンテーター 毎澤 典子先生

平成17年10月8日(土)教育会館2階会議室において日本学校教育相談学会栃木支部月例研修会が行われた。コメンテーターに宇都宮市教育センター就学相談員の毎澤典子先生を迎え、4つの事例が発表された。

- ①影山 憲一先生 足利市立小俣小学校
「学校生活に適応苦手な子への支援」
- ②佐藤 美枝子先生 那須烏山市立江川小学校
「特別支援を必要とする児童への共通理解と
キャリアカウンセリングをめざした支援のあり方」
- ③齋藤 誠一郎先生 作新学院高等学校情報科学部
「不登校調査の検討と活用実践の模索」
- ④中山 昌子先生 栃木県立足利西高等学校
「虐待によるヒステリー性健忘が疑われる生徒の事例」

(齋藤 誠一郎記)

○カウンセリング特別講座・合同研修会

演題 「認知行動療法」

内山 喜久雄先生

12月3日、栃木県教育会館の小ホールにおいて、カウンセリング特別講座・合同研修会が行われた。講師には筑波大学名誉教授の内山喜久雄先生をお招きし、カウンセリングを学ぶ人達にとって関心の高い「認知行動療法」についての講義が行われた。当日の会場は定員数の150人を超えて「大入り満員！」となり、「立ち見」に「資料不足」の事態に陥ってしまうほど、盛況であった。

内山先生は、「学校においてもDSM-IVなどの正し診断基準をもとに正確なアセスメントをたて、効果がはっきりと認められた療法を的確に使うことが大切」、「ロジャースの来談者中心をベース（アナログ）にしてクライアントに合った各種の療法をピンポイントで使うこと（デジタル）が良い」などの話をされてから内山先生が監修した4つの事例をもとに認知行動療法についての講義が行われた。①チックが出て学習・対人関係に苦しむK君、②いじめから対人不安と悪夢を訴える不登校生徒に対する認知療法とリラクゼーションの併用、③不登校女子中学生を巡る行動療法的コンサルテーション、④特定の場所に対する恐怖反応を示す女子高校生に対する行動療法的アプローチ、それぞれの事例でどのように認知行動療法が使われたのかを解説した。認知行動療法では「心」とは「情動と認知」からできていると考え、認知（考え）を変えることで「情動」「行為」「生理」を変える。具体的に行動を教えることで行為が変わる。「認知療法はクライアントの中にプラス志向（自己効力感：セルフエフィカシー）を生み出させる」と話を締めくくった。（藤浪 直紀記）

○日本学校教育相談学会栃木支部月例研修会

演題 「小児科医から見た児童臨床」

渋川 典子先生

平成 18 年 1 月 21 日(土)教育会館 1 階小ホールにおいて、渋川小児科医院長の渋川典子先生により「小児科医から見た児童臨床」という演題で、支部月例研修会が行われた。

研修内容は、チック、場面緘黙、虐待、不登校など、先生が関わってこられた様々なケースを取り上げて始まった。広汎性発達障害、ADHD などの児童・生徒を抱えた先生が多い中、子どもへの接し方を専門的な立場から、示唆していただいた。特に、広汎性発達障害の子が思春期を乗り越えることの難しさ、その援助の大切さ、ADHD を預かった担任の先生は、「子どもを担当が預かったのではなく学校で預かったのだ」という意識をもつ」という先生の話に少し気持ちが楽になったのではないかと。

最後に性教育については十代の中絶についてよく、語られるが、40 歳代の中絶が最も多いとのことだった。望まない妊娠をしないことを大人がしっかり意識し、子どもたちに教育することが必要であることを痛感した。

その後、質疑があり、受講された 20 名の先生にとって、大変実のある研修会であったと思われる。
(齋藤 誠一郎記)

○精神医学特別講座

演題 「家族との連携」

榎林理一郎先生

去る 2 月 4 日、日本家族療法学会会長榎林理一郎先生をお招きして『家族との連携』という演題のもと、家族療法の捉え方について、ご講演を頂いた。栃木県教育会館 5 階の大会議室がこの日、会場にあてられたが、予想以上に各講座から人々が多く参集したため、椅子を増設するほどの賑わいとなった。

システム論的家族療法におけるケースの読み取り方を、パワーポイントを用いて、分かりやすく説明されていた。家族の固定化した流れをどう捉えるかというなかで、先生は「会話に注目する」と言う。会話と行動のプロセスに違ったパターンを作り上げていくことが、悪循環化した家族の交流をよりよい循環へと生み出していくことができると話された。家族療法の基本は人と人との「関係性」に注目し、物事をポジティブに捉えること、そして犯人探しをするのではなく、家族の持つ意味付けを尊重することが大切なのであると述べられた。家族療法は「臨床の思想」と語られる先生の熱意が聴き入る聴衆の心にも十分に届いているのではないだろうか。
(馬場 友治記)



○「学会研修プログラムによる基礎研修」

主催 NPO栃木県カウンセリング協会
日本学校教育相談学会栃木支部

日時 平成17年12月23日(金)～25日(日)

場所 栃木県教育会館 中会議室

日程 9:20 10:50 11:00 12:30 13:30 16:30



12月23日(金)	Session 1		Session 2	昼食	Session 3
12月24日(土)	Session 4		Session 5	昼食	Session 6
12月25日(日)	Session 7		Session 8	昼食	Session 9

- Session 1** 「学校教育相談概論」
丸山 隆 栃木県教育研究所相談部長、臨床心理士
- Session 2** 「保健室のカウンセリングマインド」
池田 清恵 城山東小学校養護教諭、学校カウンセラー
- Session 3** 「構成的グループエンカウンター」(演習)
築瀬 のり子 矢板中学校教諭、学校カウンセラー
- Session 4** 「発達障害の理解と対応」
原田 浩二 鹿沼みどりが丘小学校教頭、学校カウンセラー
- Session 5** 「問題行動の理解と指導」
小齋 哲也 那須町教育委員会指導主事、臨床心理士
- Session 6** 「保護者との面接演習」(演習)
金子 賢 教育心理研究所所長、臨床心理士
- Session 7** 「不登校の病理と対応」
伊澤 裕 宇都宮市教育センター指導主事、学校カウンセラー
- Session 8** 「学校カウンセリングの実際問題」
影山 憲一 足利小俣小学校教頭、学校カウンセラー
- Session 9** 「かかわり技法・傾聴技法」
日野 宜千 栃木県カウンセリングセンター代表、臨床心理士

今年は年の瀬も押し詰まった師走に開催されましたが、定員を超える参加者が集まり、18時間に及ぶ講座は熱気溢れる中で好評のうちに終えることができました。以下参加者の皆様の声を代表して一部記載します。

○教室や保健室の現場で日々奮闘する先生方の言葉は重く説得力がありました。(AKさん)

○事例や演習を体験し共感することが多くありました。また、同時に学校現場で起きることだけが全ての問題ではないことを実感しました。(ENさん)



○ 参考資料

平成18年度日本学校教育相談学会栃木支部事業(案)

日程のみ決定

開催期日	事業名	会場	備考
6月 3日(土)	【第15回総会】 講演「アメリカのスクールカウンセリング事情」 キャロル・A・ダフィール先生 他	栃木県教育会館 小ホール	
10月 21日(土)	【月例研修会】 「第13回支部研究発表大会」 コメンテーター 毎澤 典子先生	栃木県教育会館小会 議室	
12月 9日(土) もしくは 12月 16日(土)	【カウンセリング特別講座・合同研修会】 講演 「未定」(ナラティブセラピーを予定) 龍谷大教授 吉川 悟先生	栃木県教育会館 小ホール	
12月 23日(土) 24日(日) 25日(月)	【学会研修プログラムによる基礎研修】 日野 宜千先生、丸山 隆先生 他	栃木県教育会館大会 議室	
1月 20日(土)	【月例研修会】 講演「未定」(発達障害関係を予定) 服部 美香子先生	栃木県教育会館 中会議室	
2月 3日(土)	【精神医学特別講座】 講演「うつを考える」 一番町クリニック 手塚 隆夫先生(予定)	栃木県教育会館 小ホール	

○ 栃木支部よりお知らせ

①日本学校教育相談学会栃木支部総会のお知らせ

2月6日に行われた栃木支部理事会において、来年度の事業計画について、話し合いがなされ、平成18年度日本学校教育相談学会栃木支部総会が6月3日(土)に栃木県教育会館小ホールで実施されることが決まりました。

また、18年度の事業計画は日程が確定し、研修会、講演会の講師として、各専門領域の第一人者の方々と交渉中です。(参考資料として事業計画、協賛研修会(案)を載せておきます)会員の方々は奮って参加していただければと考えております。詳しくは栃木支部総会にて資料が配布される予定です。

②広報委員会よりのお知らせ

平成16年度より「年間2回の発行」を目的に、発行当初は「大変だなあ〜」「面倒くさいなあ〜」と思いましたが、『栃木支部会報』も昨年度発足した広報委員会の協力により、内容が充実し、担当理事としても、鼻が高いです。広報委員会の先生方の御協力には心から感謝しております。

理事会で「広報委員会に次いで、“研修委員会”のようなものを作り、栃木支部会員の方々により満足していただける研修が出来ないか？」との話題もでております。今後、栃木支部の活動に会員の方々も振って参加していただけることを希望しています。

③栃木支部研究紀要第11号の原稿募集のお知らせ

次年度には栃木支部研究紀要第11号の原稿募集があります。後ほど詳しくご連絡さし上げますが、投稿希望される会員の方は例年8月頃募集致しますので、ご準備の程、よろしくお願い致します。

④栃木支部事務局からの住所変更、並びに勤務先、所属先変更の連絡のお願い

支部事務局より会員の「本会より会員名簿の変更の連絡が栃木支部事務局に届いていない」という報告がありました。個人情報保護法等の関係もあり、事務局も苦慮しております。

栃木支部会員の中で住所変更、並びに勤務先、所属先が変更になった会員の方は、その旨、栃木支部事務局、並びに、本部会員のかたは本部事務局にも、ファックスまたはハガキにて御一報いただきますよう宜しくお願いいたします。

日本学校教育相談学会本部事務局

〒190-0022 東京都立川市錦町 2-1-21-501 学校教育相談研究所 内 TEL 042-548-8669
FAX 042-522-1523
日本学校教育相談学会 事務局 担当 佐藤

日本学校教育相談学会栃木支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内 TEL・FAX 028-627-5682
栃木県教育研究所相談部 栃木事務局 担当 谷津

(会報発行責任者 丸山 隆 / 広報担当 藤浪 直紀)